

# 「柏崎の水」

## 八坂町（西本町） 共同洗濯場の湧き水

八坂町の共同洗濯場は、上水道と洗濯機の普及により役割を終え、現在はその痕跡を残すのみだが、かつて多くの人に利用され親しまれていた。西本町八坂児童公園の近くにあった洗濯場は、小町、島町、鶴川町、港町1・2丁目、本町1・2丁目（現在の西本町2・3丁目、東港町、西港町、新橋）の人々が使用し、掃除等の管理は利用者が共同で行っていた。そして、雨や日差しよけの屋根が掛けられ木枠が組まれた洗濯槽には、大量の湧き水が注ぎ込んでいた。

明治時代、石油井戸の掘削が盛んになると、この場所でも石油採掘が試みられたが、湧き出たのは水のみであった。柏崎文庫の八坂新町（八坂町の旧町名）の頁にも「明治三十四五年の頃 石油井を鑿ちしに 石油出ず 清水混々として出たり」の記述がある。水量が豊富だったためか、この場所はいつの頃からか洗濯場として使われるようになっていた。

しかし、昭和39年の新潟地震以降、湧水量は徐々に減少したという。また、昭和20年頃の柏崎温泉採掘の際には、2週間ほど湧出が止まった。これは、掘削中の柏崎温泉井戸の深さが洗濯場の井戸と同じになった時に起こった、とされている。（「こどものための柏崎物語」）

約17と温かい水が湧く洗濯場は、冬場は特に重宝され賑わった。西本町3丁目には「洗濯場の小路」と呼ばれた道があり、大勢が洗濯物を持って行き来していたことが想像される。

洗濯場の小路は天王さん（八坂神社）に通じることから天王小路とも呼ばれる。なお、八坂神社は明治25年に移転するまで、現在地の40mほど海岸寄りにあった。天王小路については、ソフィアだより 第35号の「柏崎の小路」で紹介している。

### 参考にした本

- 「砂丘の台地に生きる」中央地区コミュニティ振興協議会（224 K チュ）
- 「こどものための柏崎物語」笹川芳三 著（224 ササ）
- 「柏崎市史資料集 近現代3下」柏崎市 編（224 K シヘ）
- 「稿本柏崎市誌（年譜）」柏崎市立図書館 編（224 K トシ）
- 「柏崎文庫」関甲子次郎 著（080 セキ）
- 「柏崎古絵図対照図」（292 ササ）



写真 上：共同洗濯場（柏崎市史資料集 近現代3下 所収）  
下：現在の様子 右下部分に井戸が残る

